

安心・安全な不耕起栽培法によるお米について

不耕起農法とは、千葉県香取市在住の岩澤信夫氏（日本不耕起栽培普及会会長）によって 20 年以上前から研究開発されてきた農法です。もともと「不耕起栽培」は愛媛県伊予市の福岡正信氏が考え出した言葉ですが、米づくりに特化し広め実用化させたのが岩澤氏で、不耕起栽培研究の実績が評価されこのたび「吉川英治文化賞」を受賞しました。

農耕とは土地を耕す事を意味し、我々にとってなじみ深い言葉ですが、不耕起農法とは自然の力で稲を育むことを原点にしており、不耕起栽培法による米づくりとは文字通り田んぼを耕さないでイネを過保護に甘やかさず野生化させ丈夫なイネでお米を作る農法で、誰しもにわかには信じられない理解しがたい事だと思います。

この農法では前年の田んぼのイネの古株と古株の間に苗を植えますが、通常の稲作農家で行っているトラクターでの 5 回もの田んぼの耕し（秋起こし、寒起こし、春起こし、荒代かき、本代かきなど）をしないのです。

また 農薬や化学肥料は一切使用せず、糸ミミズを発生させそのエサとしての米ぬかやクズ大豆を撒くことで糸ミミズの糞が素晴らしい肥料になるわけです。

不耕起栽培法の 7 つの特徴

1) 農薬や化学肥料を一切使わない上、イネが野生化して丈夫になり、病気や虫、冷害にも強くなる。そのような元気なイネのおコメであるから当然美味しい。

2) 分けつ（イネの茎が根元から枝わかれすること）が多く、太くて倒伏しない。しかも粒の大きな穂を实らせる。

3) 土壌構造が物理的、生物的に変わっておコメが美味しくなる。

（毎年のイネの根が張っていた腐植痕が空洞となって、スポンジ状に形成される）

4) 耕さないので省労働、省エネルギーとなり、人にも、環境にも優しい。

（トラクターなどの燃費が不要、田起こし作業が不要、代かきで濁った水や農薬・化学肥料の混ざった水を流さないで河川や湖沼を汚さない。耕すと発生するメタンガスは 1 反当り 65 kg に対し不耕起の場合 5 kg で CO₂ 換算では 3 トン（60 kg X 50）が削減される事になります。まさに 不耕起米は温室効果ガスの抑制にかなったエコ米ということです）

5) 冬期湛水（冬の田んぼに水を張ること）との組み合わせで、抑草や肥料効率が向上する。（糸ミミズの糞が積み重なってトロトロになった層が雑草の種を覆い発芽を抑えます。）

6) 藻類が増え、酸素を吐き出し、水をきれいにし、最後には自然堆肥になる。

（田んぼに撒かれたワラが基点となって、サヤミドロを代表する藻類や原生動物が増え光合成を繰り返し、酸素いっぱいのきれいな水にしてくれます。この藻類は自然堆肥に変わります）

7)生き物が増え、田んぼ本来の環境が復元し、水を浄化する。

(藻類や酸素がたくさんあれば、カエル、メダカ、タニシ、ドジョウ、トンボなどが生息し白鳥や佐渡ではトキなどの野鳥がこれを目当てに飛来してきます。)

このようなことから「日本不耕起栽培普及会」の農家の作るおコメはそもそも農薬や化学肥料を一切使用しないのですから100%安心・安全そのものです。

不耕起栽培については、しばしば新聞、テレビ、ラジオなどで紹介されよく知られるようになりました。最近では平成20年9月3日から4回シリーズで毎週水曜日NHK教育テレビ「知るを楽しむ・人生の歩き方」の番組で紹介され岩澤会長の不耕起栽培法が大反響を呼んでいます。これは昨今の毒入りぎょうざ、残留農薬で汚染された輸入事故米、冷凍インゲンの殺虫剤混入事件、汚染地下水で生産されたハム製品の回収騒ぎ、食材の産地偽装などなど次から次に食の安全・安心を脅かす事件が暴露された反動ともいえます。

また国産のおコメについても有害重金属のカドミウム米の焼却が取り上げられるなど、もはや庶民の食にたいする信頼性は全くなくなってきました。安かろう悪かろうで金儲けになるなら、危険な食材でも何でも国民をだまして商売にしようという拝金主義の社会的責任を何も感じない悪徳企業に対して消費者は「不買」という対抗策で応じるしかありません。

私たちは「日本不耕起栽培普及会」会員の栽培農家の安全なお米を消費者にお買い求め願きたく販売面で協力しております。是非宜しくお願い申し上げます。また会員農家の見学会等のご紹介も致しますのでお申し出ください。

日本不耕起栽培普及会 法人会員 クリーンサプライ株式会社
〒1803-0035 東京都府中市四谷1-1-3-103
電話 042-340-5077 FAX 042-362-4116
E-mail xsrfj169@ybb.ne.jp